

事業計画書

事業名	文楽の世界に触れる
実施箇所	佐久市田口小学校、佐久市中込小学校、佐久長聖中学校、福寿園（予定）、佐久市交流センター会議室（予定）
実施期間	事業開始予定年月日 2019年 4月 1日
	事業終了予定年月日 2019年 8月 31日
事業概要	<p><事業の目的及び達成目標></p> <p>地域的背景と課題：人形浄瑠璃・文楽はユネスコ世界無形遺産に登録されている日本の伝統文化だが、メディアの露出も少なく、佐久市では知らない人も多い。</p> <p>グローバル化が益々進む現代において、佐久市の子ども達が将来海外で活躍する可能性も非常に高く、自国の文化を知ることが必須となっている。地域による文化度や知識の隔たりは解消すべき課題である。</p> <p>事業の目的：文楽に直接触れる機会を設け、日本の伝統文化への知識と理解を深めてもらい、課題解決を図りたい。</p> <p>そのために本事業では、下記の1の具体的目的と2の波及的目的を掲げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文楽に接する機会を教育現場や福祉施設、あるいは公の場で設け、地域の教育や文化的地域づくりに貢献する。 2. 伝統芸能に従事するプロフェッショナルな精神に触れ、自分が選んだ道を追求することの意義を感じてもらう。特に文楽の人形遣いは一体を3人で動かすが、足遣いの修行が10年、左使いで15年という長く厳しい修行が必要となる。技芸員との直接的な交流で、子ども達自身が将来について考えるきっかけとなり、キャリア教育の一助となる。
	<p><事業の内容></p> <p>東京国立劇場・大阪国立文楽劇場で活躍するプロの技芸員を講師に迎え、小中学校で下記のような文楽の出前教室を行う。</p> <p>対象：小学校高学年以上（伝統芸能、近松門左衛門が教科書に登場する学年～）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文楽全体の解説（5分） ・『雅楽之助』という男性の人形を使った演目の実演（5分） ・人形の仕組みや動きの解説（5分） ・女性の人形を使った演目の実演（10分） ・人形の体験（児童生徒が実際に人形を動かす体験、20～25分） ・質疑応答（5分） <p>福祉施設では短い演目や人形の動きの実演を中心に、浄瑠璃など昔なじみのある音楽にも親しんでもらう。佐久市交流センターの会議室では一般向けのワークショップとして、文楽の簡単な歴史や概要などのレクチャー、人形の動きや仕組みの説明、演目の披露などを行う（無料）</p>

<アピールポイント>

佐久地域で生まれ育ち、海外留学をした自分自身の経験から、小中学校で本物の伝統文化に触れることの必要性を感じて活動しています。

日本には郷土芸能の人形浄瑠璃はありますが、国立劇場などで演じるプロは文楽座に所属する技芸員およそ80名のみしかいません。技芸員は本来、大阪の文楽劇場を本拠地としているため、長野県ではなかなか見ることができませんが、「文楽を広めたい・知ってほしい」と考えている若手技芸員らも積極的に本公演の合間を縫って長野県を訪れ、この振興活動にご協力頂いています。

昨年度まで「長野県元気づくり支援金」を活用して東信地域を中心に活動し、過去3年間でおおよそ25の小中高等学校で文楽の体験学習をし、古典芸能を体感してもらいました。一昨年度から出演者も児童らの人数も減らし、規模を縮小した場合の実現性と効果を検証しました。100人規模の生徒に対し10人以上の出演者が体育館のステージ上から演目を見せる鑑賞教室より、教室などで3～5人の出演者が30～50人の児童の前で、同じ目線で目の前で見せたり、児童全員が人形を触ったり、動かしたりする体験重視のワークショップの方が、子ども達に大きな印象を与え、より興味を持ってもらえると実感しました。そうした経験を踏まえて、引き続き今年度も、佐久市の子ども達や地域の方々に文楽を知ってもらい、日本の伝統文化に触れるで動をしていきたいと思っています。

年間計画	4月	開催校との開催時間の調整・打ち合わせ、福祉施設の決定・打ち合わせ
	5月	宿泊施設・レンタカーの予約
	6月	
	7月	配布資料作成・印刷
	8月	開催校や福祉施設との最終打ち合わせ、事業の実施
	9月	会計・事業報告
	10月	
	11月	
	12月	
	1月	
	2月	
	3月	

<p>活動することで期待される地域や社会への具体的な効果・成果 (事業の対象者・参加予定人数も記載)</p>	<p><「公益性」の視点> 学校での文楽教室について ・田口小学校6年生46名、中込小学校6年生65名、佐久長聖中学校70名 開催校については、3月に佐久市教育委員会を通じて企画を説明し、開催希望の学校を募りました。佐久市田口小学校と佐久市中込小学校から申し込みをもらい、開催する予定であります。佐久長聖中学校は活動開始当初より活動に理解をもらい、開催へご協力を頂いております。 地域子ども達が伝統文化を知り、自国の文化への興味を持ったり、またプロの姿勢に触れることは子ども達に大きな効果をもたらすと考えられます。 ・福祉施設 ここ2年程、佐久・小諸・軽井沢などの福祉施設で慰問公演を開催しています。浄瑠璃にはなじみのある方が多いので、楽しそうにされる方が多く見受けられます。 ・ワークショップ チラシなどを配布し、広く佐久市民の方に呼び掛けて参加者を募りたいと考えています。定員50名ほどを予定し、文化的な活動として知識と興味を深めて頂ければと思います。</p>
<p>活動を継続するための取組や考え方 (資金面、人材等)</p>	<p><「自立性」の視点> ・人材について 過去3年間、長野県地域発元気づくり支援金での活動を通じて、理解者や協力者を得てきました。ボランティア活動に積極的に参加してくれる人も増えたので、活動を継続して仲間を増やしていきたいと思っています。 ・資金面 活動を続けて、認知してもらうことで、寄付金や協賛金などを集めたいと思っています。また同時に、実績を積む中で、大手企業の助成金や支援金への申請なども検討したいと思っています。地域の方々に文楽を知ってもらい、興味を持ってもらえるような活動を行い、2021年には有料での大きな公演を手掛けて、チケット販売などで学校等での文楽教室の費用が賄えるようにできればと願っています。</p>
<p>翌年度以降の活動内容概要</p>	<p>2020年は、2019年度とほぼ同規模での事業を継続して行う。文楽を知ってもらい活動を続け、文楽ファン、文楽を見たいと思う人を育てていく。 2021年は、佐久市交流センターでのホールでの大きな公演を行い、チケット販売などで学校でのボランティア活動の資金を賄えるように準備する。</p>
<p>事業の最終目標</p>	<p>・佐久市や周辺地域の小学校で毎年、文楽教室を開催する。その結果、定期的に行うことができる学校が出来たり、あるいはこの活動の積み重ねで、何年か後には、地域の全小学校を回る事ができればと考えている。 ・この活動で文楽を知り、日本の伝統芸能に興味を持った子ども達が、より日本の文化に興味をもってもらいたい。将来、大阪や東京の劇場などで文楽や伝統芸能を自発的に鑑賞するようになれば嬉しい。 ・佐久市や周辺地域での文楽ファンを増やし、文楽協会の地方巡業が開催できるようになる。 ・文楽に触れた子ども達の中から、伝統芸能の道、できれば文楽のプロを目指す人が現れることを願っている。</p>